

たき火を囲んで 薪割り大会



とき

12月4日(日) 10:30-15:00

ところ

彩工房 笠取工作所

彩工房では、「暮らしと住まい」をテーマに、日常を豊かにするさまざまな催しを行っています。12月は、恒例の薪割り大会を開催します。

暖かい炎を眺めていると、時間が経つのを忘れるものです。

こうばしいたき火の匂い、澄んだ森の空気、寒い冬もやっぱり外は気持ちがいい。

子どもは、枝葉や木くずで遊んだり、大人は木を伐って、割って、一日木こりになったような体験をしてみませんか。

会場は、豊かな森の中に佇む工作所です。

山から伐り出された木が職人たちにより乾燥・製材され、強く美しい木組みが生まれていく過程を見ることができます。木の匂いがいっぱいです。ぜひ覗いてみてください。

今年はスペシャルゲストに、薪ストーブ屋さんの暖楽舎さんをお招きします。

薪ストーブって、暖かいの？やっぱり手間がかかる？薪はどうやって集めるの？といった素朴な質問から、メンテナンスの方法など、教えてもらいましょう。

毎年好評の、しいたけの原木菌打ち体験もやりたいと思います。

薪ストーブをお持ちの方も、たき火にあたりたい方も、木が好きな方も、ぜひお集まりください。思い思いに冬の一日を楽しみましょう。

木を燃やす



火が燃えだと、その場の空気が変わる。 そんな気がするのは、生物の本能でしょうか。

子どもは火遊びが大好き。 でも実は大人も、なかなか火のそばを離れられません。 くべた木が、だんだんと燃えていく様子に見入ってしまいます。

体の中からじわじわ暖まってきて、なんとも心地よい。 少し気まずい人との間にも火があると、なかなか居心地がよくなったりするから不思議です。

おじいさんおばあさんが子どもだったころ、森で木を拾って運んでくるのも、燃やしてお風呂を焚くのも、子どもの仕事だったとか。もちろん火傷をする可能性は増すでしょう。薪の用意も掃除もついて回ります。

それでも火がもたらしてくれる楽しさ、美味しさ、ほっとする感じ。 そんな感覚は、もっと大切なもののかもしれません。

木が燃えて残るのは、灰。灰は畑の栄養となります。 木を伐り出した後の森。そこには新たな木が芽吹きます。

便利な電気やガスが広まって、私たちも、子どもたちも、森に入らなくなりました。 遠い国から燃料を買ってくるよりも、近くの森の木を燃やして暖まることは、案外賢い選択なのかもしれません。

12月4日(日) 10:30-15:00 *雨天決行

■定員 40名

■参加費 500円/名 乳幼児無料

*豚汁、ご飯、南インド野菜カレーのお昼、おやつ代および保険代を含みます。
*割った薪は、一家族10束1,000円にてお持ち帰りいただけます。



■会場 彩工房 笠取工作所

〒601-1393 京都府宇治市二尾膳前谷 9-1

- ・京滋バイパス笠取IC、南郷ICから共に5分
- ・各インターより滋賀県道・京都府道3号（宇治川ライン）を宇治方面へ、乗馬クラブ（カシオペアライディングパーク）入口を右折すぐ

お申込み・お問合わせ ▶▶▶

<http://www.saikobo.co.jp>

彩工房ホームページのお申込みフォームにて、参加される方全員のお名前とご連絡先をお伝えください。11月19日(土)より受付を開始します。

彩工房

info@saikobo.co.jp
tel:075-632-9889
京都市山科区四ノ宮大将軍町15

よい
家を
つくる。



次のセミナー
2/11 森かおるさんの料理教室
を予定しています。